



日進北小だより

平成31年2月1日

第10号

TEL 048-663-1842

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp>

学校教育目標

心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する

給食週間

校長 宇佐見 弘幸

冬型の気圧配置が強まり、私たちが生活をしているさいたま市では、連日強い北風が吹き、外に出ると思わず背筋を丸め、首を縮めて歩いてしまいます。保護者や地域の皆さんとお会いしても、「寒いですねえ」というごあいさつから始まるような毎日です。しかし、先日は、通学路に面したあるお宅の梅の木にきれいな花が咲き始めているのを見つけました。寒さの中でも生き物たちは必死に生き、春を待っています。今月の中ごろには、各地で梅の花が見ごろを迎えることと思います。

さて、日進北小学校では、1月22日（火）から28日（月）までを給食週間としました。わが国における学校給食は、明治22年に始まりました。山形県鶴岡町の私立忠愛小学校で貧困児童を対象に学校給食を実施したのが、始まりといわれています。その後、戦争の影響などによって中断されましたが、戦後の食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に、学校給食の再開を求める声が高まるようになり、アメリカ合衆国から、給食用物資の寄贈を受けて、昭和22年1月から学校給食が再開されました。昭和25年には、1月24日から1月30日までの1週間を「学校給食週間」としました。各学校では、この期間に合わせて、様々な取組を創意工夫しています。本校では、児童給食委員会がテレビ放送による児童集会を行い、各学級に調理員さんをお招きする交流給食を実施しました。

さいたま市では、平成27年7月1日（水）、全国に先駆けて、すべての小中学校で自校給食が開始されました。私は当時、自校給食最終実施校となった小学校に勤務しておりました。当日は、副市長をはじめ、教育長がお客様として来校され、新聞社やテレビ局が取材に訪れました。センター給食と自校給食を同一校で経験する貴重な体験をさせていただくと、自校給食のありがたさを痛感します。センター給食は、トラックで給食を運搬するため、給食の開始時刻や、終了時刻を変更することができません。学校行事等で、少し早めに給食を食べさせたい、少し遅めに給食を出してもらいたいという時には、保護者の皆様にお弁当をお願いしなければなりません。アレルギー等の対応でも、自校給食のような対応は、難しい場合があります。また、調理が進むにつれて、校舎内に漂う良い匂いは食に対する関心を高め、食育に良い影響を与えています。本市の素晴らしさを実感します。

本校では平成19年に新しい給食室が完成し、自校給食を実施しています。学校栄養職員1名と総数13名の委託調理員で、毎日860食を超える給食を作っています。栄養満点の給食は、この時期に心配される感染症の予防にも効果があると思います。豊かで安全な給食の提供は、各ご家庭にお願いしている食材費としての給食費の納入や、該当保護者の皆様に毎月お願いしているアレルギー対応食献立表の提出に支えられています。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

まもなく立春をむかえますが、まだまだ寒い日が続きます。保護者の皆様、地域の皆様も健康にはくれぐれもご留意ください。